キュンチョメ
レクチャーパフォーマンス／参加型イベント

『円頓寺クリケットクラブ』

Kyun-Chome
Lecture Performance / Participatory Event

“Endoji Cricket Club”

10.5 Sat

なごのキャンパス体育館
Nagono Campus Gymnasium

情の時代
あいち
トリエンナーレ
2019
AICHI TRIENNALE 2019:
Taming Y/Our Passion

クリケットは英国発祥の球技で、野球の原型と言われるスポーツだ。現在も主にイギリスの旧植民地国で盛んにプレーされ、サッカーに続き世界で二番目に競技人口の多いスポーツである。

そんな世界的な大人気スポーツも、日本では全くといっていいほど知られていない。私も一年ほど前に制作で愛知を訪れるまでは、クリケットというスポーツがこの世に存在することすら知らなかった。しかし実は愛知県はクリケットが盛んに行われている日本では珍しい地域の一つである。なんと愛知県内だけで20近くのクリケットクラブがあるのだそうだ。メンバーはほぼ全員が外国人で、旧イギリス植民地領出身の人が大半を占める。愛知県は総人口における外国人比率が全国で二番目に高いことで知られているが、クリケットラバーズな彼らは中古車販売を生活の糧にしていることが多く、独自のコミュニティをもっている。例えば、在日インド、パキスタン、スリランカ人は、お互いの言語を理解できないけれど、全員クリケットができるので、草むらの上で友達になれるのだそうだ。

「クリケットが好きなんですか？」愛知で出会ったあるパキスタン人に質問をすると目を爛々と輝かせ、こう答えた。「僕の人生には3つの大切なものがある、一番目はアッラー、二番目がクリケット、三番目が食事さ」
クリケット、なんと二番目である。アッラーに続く大切なものだということは、それはだいぶ心の底から愛されているということなのだろう。続けて彼はこう言う。「クリケットは誰にだってできるし、誰だって歓迎だよ。クリケットを知っていたら、絶対みんな仲間に入れてくれるよ」

“クリケットを知っていたら”という言葉はとても重要で、知ろうとする態度こそが鍵になるということだ。私はクリケットを知りたいと思った。だけどそれは新しいスポーツを知りたいのではない。彼らの愛するものを知りたいのだ。それはつまり、未知なる愛を知るということに他ならない。

今日、私たちはこの場所で、見慣れない太く平たいバッドを握ることになる。助走をつけて水面をかくように腕を動かしてボールを投げることになる。それはきっと、ほとんどの人にとって不慣れな行為のはずだ。でも上手くやる必要も、ルールを頭に叩き込む必要もない。そのかわり、ティーを飲んで、話をして、お祈りをしよう。今日、私たちは愛を習うのだ。

キュンチョメ

2011年東京都にて結成
東京都拠点

ホンマエリとナブチの男女二人によって結成されたアートユニット。自らの嗅覚と欲望に従って国内外各地に中長期にわたり滞在し、行為（アクション）、リサーチ、インタビュー、映像制作を繰り返しながら、その土地の最もコアな現実に切り込んでいくスタイルで活動している。これまで福島、石巻、沖縄、香港、ベルリンなど、社会の分断を抱えた地域での活動を、主に映像インスタレーションとして発表。科学や論理を超えてなお人々が信じようとする「現代の信仰」の対象を探り、そこに渦巻く感情や真実をあぶり出す作品群は、加害者と被害者、当事者と非当事者、善と悪の境界線を揺さぶり、詩的かつユーモラスに異次元へと昇華させる。

Kyun-Chome

Formed 2011 in Tokyo, Japan
Based in Tokyo, Japan

Kyun-Chome is an artist unit comprised of the female-male duo Eri Homma and Nabuchi. Acting on their keen senses and curiosity, they conduct mid- to long-term residencies in various locations both at home and abroad, performing repeated research, interviews, video creations, and a series of "acts" in order to dig deep into the core of the reality of a particular place. They have created work, mainly in the form of video installation, in socially divided areas such as Fukushima Prefecture, Ishinomaki City, and Okinawa Prefecture, as well as in Hong Kong and Berlin. Kyun-Chome investigates the object of modern faith, which people seek out despite its transgressions of science and logical reasoning. Realized by way of unveiling this faith's underling emotions and truth, their body of work blurs the boundaries between perpetrator and victim, parties involved and disinterested, and good and evil, poetically and humorously sublimating them.

主な作品発表・受賞歴

2018　江陵国際ビエンナーレ2018
　　「The Dictionary of Evil」江陵（韓国）
2017　Reborn-Art Festival 2017、宮城
2016　個展「暗闇でこんにちは」駒込倉庫、東京

Selected Works & Awards

2018 Gangwon International Biennale 2018: *The Dictionary of Evil*, Gangwon, South Korea
2017 Reborn-Art Festival 2017, Miyagi, Japan
2016 *Hi in the darkness* (solo), Komagome Soko, Tokyo, Japan

Concept & Direction: Kyun-Chome
Co-operation: Tsushima Cricket Club (Umer Ahmed Dar, Zain Abaden, Umer Malik, AR Golo, Muhmmad Waqas, Kanada)

Curator: Chiaki Soma (Aichi Triennale 2019)
Production Manager: Sayuri Fujii (Aichi Triennale 2019)
Production Assistant: Shun Sato

Produced by Aichi Triennale 2019, Kyun-Chome
Presented by Aichi Triennale Organizing Committee

構成・演出: キュンチョメ
協力: 津島クリケットクラブ (ウマル・アハマド・ダール、ゼイン・アベディン、ウマル・マリク、AR・ゴルー、ムハマッド・ワカース、カナダ)

キュレーター: 相馬千秋 (あいちトリエンナーレ2019)
制作統括: 藤井さゆり (あいちトリエンナーレ2019)
制作アシスタント: 佐藤駿

製作　あいちトリエンナーレ2019、キュンチョメ
主催　あいちトリエンナーレ実行委員会

「あいちトリエンナーレ2019」パフォーミングアーツ
AICHI TRIENNALE 2019 / Performing Arts

キュレーター Curator
相馬千秋 SOMA Chiaki

アシスタントキュレーター Assistant Curator
藤井さゆり FUJII Sayuri

コーディネーター Coordinator
清水翼、村松里実 SHIMIZU Tsubasa, MURAMATSU Satomi

テクニカル・ディレクター Technical Director
尾﨑聡 OZAKI So

票券 Ticket Administration
山﨑佳奈子 YAMASAKI Kanako

翻訳 Translation
Art Translators Collective
(相磯展子、ペン・ケーガン、リリアン・キャンライト)

Art Translators Collective
(AISO Nobuko, Ben CAGAN, Lillian CANRIGHT)

編集・執筆 Editor/Writer
鈴木理映子 SUZUKI Rieko

編集: 鈴木理映子
デザイン: コバヤシタケシ (SURFACE)
印刷: グラフィック

あいちトリエンナーレ2019 情の時代
2019年8月1日 [木] ー10月14日 [月・祝]

主な会場: 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか (四間道・円頓寺)
豊田市 (豊田市美術館及び豊田市駅周辺)
芸術監督: 津田大介 (ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)

主　　催: あいちトリエンナーレ実行委員会
助　　成: 損保ジャパン日本興亜「SOMPO アート・ファンド」(企業メセナ協議会 2021 Arts Fund)
公益社団法人企業メセナ協議会 2021 芸術・文化による社会創造ファンド
一般財団法人地域創造

AICHI TRIENNALE 2019: Taming Y/Our Passion
August 1 (Thursday) to October 14 (Monday, public holiday) , 2019

Main Venues: Aichi Arts Center, Nagoya City Art Museum, Nagoya City (Shikemichi and Endoji)
Toyota City (Toyota Municipal Museum of Art and other venues in the vicinity of Toyotashi station)
Artistic Director: TSUDA Daisuke (Journalist / Media Activist)
Organizer: Aichi Triennale Organizing Committee
Supported by Sompo Japan Nipponkoa Insurance Inc.「SOMPO ART FUND」(Association for Corporate Support of the Arts, Japan:2021 Fund for Creation of Society by the Arts and Culture), Association for Corporate Support of the Arts, Japan: 2021 Fund for Creation of Society by the Arts and Culture, Japan Foundation for Regional Art-Activities

beyond 2020